

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101174
法人名	特定非営利活動法人 大瀬戸福祉サービス
事業所名	特定非営利活動法人 大瀬戸福祉サービス グループホームわらび苑
所在地 (電話番号)	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸檜浦郷1468番地 (電話) 0959-37-0037

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成21年2月23日	評価確定日	平成 21年 3月 25日

## 【情報提供票より】(21年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人	
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.25人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建て	1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(21年1月現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.25 歳	最低 72 歳	最高 97 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	浦口医院、日浦病院、真珠園診療所、山根歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設以来、理事長は常に先駆的な取り組みを続けてきた。目標を明確に掲げ、職員の持っている力を伸ばすための環境を整えることで、ご利用者の真のお気持ちを汲み取れる力を職員は身につけてきた。ホーム内だけに留まらず、西海市全体の福祉の向上を願い、市役所の担当課長との意見交換を続けながら、“ホームができること”を追求し続けている。今年は、開設10年を迎える前の年でもあり、“10年の歩み”をさまざまな視点でまとめていく作業も始めている。誰が見てもわかる書類、どこを見れば何が書かれているか等、記録の整備も着々と進められている。管理者や職員は、グループホームの職員としてのあり方を、毎年、地道に考え続けてきた。一番の指導者は“理事長であり、そして、ご利用者とご家族”であった。日々、多くの学びを頂く中で、自分の立ち居振る舞いや心のあり方、そして自分の人生に至るまでも深く見つめるようになってきた。確実に、自分が変化していることを職員は自覚しており、感謝の気持ちも増えてきている。管理者が大切に育てている花々や周囲の木々の移ろい、畑に遊びに来るイノシシのこと等も話題にしなが、職員とご利用者の笑い声が聞こえてくるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>昨年の自己評価、外部評価の結果に基づき、改善策を検討した。①理念自体を職員が見つめ直す機会を作った②西海地区6事業所合同で行っていた運営推進会議を同系列ホーム単独で開催するようになった③家族会を開催するようになった④事業所の広報紙を作製するという取り組みを行なった。そのためのパソコン教室をホーム内で開くようになり、職員のパソコン技術が向上してきている。常に「現状に満足してはいけない」という思いで、職員全員、日々取り組んできた。</p> <p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>職員の入れ替わりが少ないため、年々、評価項目に対する職員の理解も深まってきている。ご利用者の入退居に伴いケアのあり方等も一人一人異なるため、毎年のケアの評価を含めて、この自己評価が1年間の振り返りの機会になっている。理事長、管理者は、前年の外部評価に関する勉強会を開催しているが、自己評価に対する職員の意見や視点も深くなっている。</p>
	②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>昨年までは、西海地区のグループホーム6事業所合同で開催しており、他のホームの取り組みを知ることができる等の利点もあった。毎年、会議のあり方を検討してきたが、参加者が“よりホームに関わる話”ができることを目的として、単独(同系列ホーム合同)で開催する形へと変更した。西海市の担当課長、地域包括支援センター、行政区長、ご家族の方々が集い、ホーム内の具体的な取り組み内容について細かく意見交換が行われるようになってきた。参加者のそれぞれのお立場の実情や課題等も話して頂けるため、より良い運営に向けた有意義な会議となっており、西海市全体の福祉の向上に向けた話し合いも行われている。</p>
重点項目	③	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>開設依頼のご利用者もおられ、ご家族との信頼関係は深くなっている。気軽に話せる関係も築けてきており、ご利用者が入院された時、他のご家族の協力も頂いて病院の付き添いをして頂いた。なるべく、ご家族の方がそれぞれ心配されていることに対して、きちんと説明し安心して頂きたいと全職員は考えている。今年の1月1日、初のホーム便り“わらび苑だより”を作成した。夏祭り等でも交流を続けている“第二、第三わらび苑”の方々も含めて、多くの写真が掲載されており、“長く残していける貴重な思い出”として、今後、ご家族の更なる楽しみになることが期待される。</p>
重点項目	④	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>理事長は自治会の活動、地域の清掃活動、老人会の食事会に参加し、地道に地域の方々との交流を続けてきた。理事長が人権擁護委員として、頻繁に小中学校を訪問する等の活動も積極的に行っている。小学校との交流もあり、毎年、子供たちが栽培した冬瓜や白菜等を西山ホームに持ってきてくれる。同系列のホームと合同で夏祭りを開催しているが、年々、ご家族や地域の方々の参加や協力も増えてきている。ボランティアとしての参加者も定着してきている。西海市からの事業受託で、西海市認知症ケア研究会に所属するグループホーム6事業所で分担し、地域の方向けの介護教室等も開催している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に理事長が「地域の中で安心して普通に暮らす」という思いも込めて、「みんなで いっしょに ゆっくり たのしく」という理念を作った。その中には、「地域の人を 地域の人が 地域で」という意味が込められている。12年開設以来、この理念を大切に伝え続けてきたが、理事長、職員ともに「理念は現状に即したものであるのか？」ということを念頭に置き、前回の外部評価以降にあらためて、職員同士で理念のあり方を見つめてみたが、“このままで・・・この通りで”と言う結論に至った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中や毎週のミーティング時、理事長や管理者が理念に通じる話をしている。馴れ合いにならないことを大切にしながら、現場で行っていることが理念に結びついているのかを職員は再確認している。方言等の言葉の使い方、ご利用者への接し方等で気になる時は、管理者が中心となり助言や指導をしてきた。年々、職員自らも、あるべき姿等の理解が深まり、自分の行動も振り返れるようになり、理念の共有、実践が更に行えるようになってきている。	右へ 続く	リビングの壁に、大きく理念を書いて張り出している。外部評価の訪問時、ご利用者が大きな声で理念を読んでいる姿が見られた。横で続けて職員の方々も笑顔で読まれており、日々の生活の中に、その言葉(理念)は当たり前になり馴染んでいることが理解できた。入居後の歩行状態等の心身機能が保たれている方が多く、何よりの安心につながっており、理念の実践の成果の一つと考える。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	理事長及び職員は地元の方が多く、理事長は自治会の活動、地域の清掃活動、老人会の食事会に参加しているが、清掃は朝5時から始めている。また、長年、理事長は人権擁護委員として、地域の方々からの相談を受けるとともに、頻繁に小中学校を訪問する等の活動も積極的に行ってきた。小学生が職場体験に来て下さり、栽培した冬瓜や白菜等を沢山ホームに持ってきて下さっている。	右へ 続く	同系列のホームと合同で夏祭りを開催し、ご家族や地域の方々を招待しているが、準備や出し物をして頂く方々も年々増えてきており、地域の方も楽しみにして頂いている。地域の花祭りには、ご利用者も一緒に参加している。地域の方々とともに、季節の行事を楽しむことを大切にしている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理事長は、前年度の外部評価に関する勉強会を開催し、職員に自己評価の項目の説明を行った。職員の入替わりが少ないため、全職員の評価に関する理解が深まってきており、今回の自己評価も職員とスムーズに取り組むことができた。改善計画は作成されていないが、市内にあるホームで開催されていた運営推進会議を単独で行ったり、家族会の開催、ホーム便りの発行など、より質を上げるための新たな取り組みを続けてきた。	右へ 続く	理事長の意向もあり、今回の外部評価の時に、西海市の長寿介護課の課長がホームを訪問して下さいました。市の立場から、ホームとの連携のあり方や市の実情や課題等をわかりやすく教えて下さり、とても勉強になることばかりの情報を頂くことができました。行政とホームがいかに信頼関係で結ばれているのかを、目の前で目撃させて頂く機会となった。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より、西海地区のグループホーム6事業所合同で開催する形から、参加者が、よりホームに密着したやりとりができることを目的として、単独(同系列ホーム合同)で開催する形へと変更した。その効果は大きく、よりホーム内のことに関して、深く意見交換ができるようになった。またホーム内のことに留まらず、地域全体のつながりといった視点でも活発な意見交換が行われている。会議の中では、家族会の発足や広報紙についても話し合われ、前向きな取り組みにつながったことも多くある。会議の内容は、議事録にわかりやすく残されている。	○	ご家族の要望があり、運営推進会議を夜に開催しているため、ご利用者の出席は困難な状況で、ご利用者と出席者の意見交換や触れ合う機会が少ない状況にある。理事長は、会議の時間については、参加者の都合で柔軟に対応していきたいと考えている。今後、会議に出席される方々に、ご利用者、ホームの現状を更に深く理解して頂くため、普段の生活状況を写真等で撮影し、「コミュニケーション記録」にある名言、ご利用者の思いをそのまま代弁する等、ホームの現状を理解する働きかけを検討していきたいことを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	西海市からの事業受託で、西海市認知症ケア研究会に所属するグループホーム6事業所で分担し、地域の方向けの介護教室を開催している。離島で交通の便が悪い平島、江ノ島、松島においても、「高齢化率の高い島だからこそ必要性が高い」と介護教室等に出向いている。また、理事長、管理者が運営推進会議の案内を市役所に持参して、市の担当者と意見交換を行っている。課長との付き合いも長く、お互いに市のことを真剣に考え、市全体の課題を真剣に話し合う関係ができています。	右へ 続く	理事長も市の課長も同意見であったのが、“行政とホームの役割について”、“どちらがやるか・・・”ではなく“どちらがやれるか・・・”という気持ちを持って話し合っていくことが必要であると、考えられている。また制度に関する住民の方への啓蒙活動の必要性も感じており、介護教室等を通して、地道に協働で(行政とホーム)、活動を続けていく予定にしている。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は、ご家族の方がそれぞれ心配されていること、知りたいことを把握している。月に1回程度、今年から発行しているホーム便りや日々の写真を郵送している。また、面会時には、日頃の暮らしぶりや健康状態などを口頭で説明し、行事の際のご利用者の写真等もお渡しし、今年度から開催している家族会の中でも報告を行っている。状態の変化や特別な受診をした時等は、その都度、電話での報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームを来訪時等、理事長、管理者、職員ともに、ご家族に声かけし、繰り返し要望を言って頂ける働きかけをしている。ご家族の本音が聞ける場面をもっと作っていきたいと考え、運営推進会議の際にご家族へ提案し、20年度より家族会を開催している。夏祭りの時等は、ご家族がボランティアとして関わって下さっているが、退居されたご家族も、ホームでの活動にボランティアとして参加して下さっている。ご家族との関わりを多く持つことで、意見を言いやすい雰囲気が出てきている。	○	理事長は、ご家族の思いを伝えて頂き、意見交換ができる場として、家族会を開催することにした。更にいろいろな話がしやすいように、退居されたご利用者のご家族の参加も考えている。今後も、家族会が定期的に開催され、ご家族同士が気軽に話ができる場が増えていくことを期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である理事長は、職員交代によるご利用者へのダメージを考えて、基本的に異動を行わないようにしている。職員の休みの希望に極力応じたり、管理者も、職員の話を良く聞くようにしている。また、互助会が作られており、職員交流のために、ハウステンボスでの食事会を開催する等の取り組みも行なわれている。年々、ホームでのケア経験年数が積み重ねられることで、職員も少しずつ自信ができてきている。自信に伴った温かい波動が保てるようになってきており、ホーム全体が本当に温かい家族のような関係が作られてきている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週のミーティング時の勉強会と合わせて、同系列ホームでの勉強会も3カ月に1度開催し、理事長が介護等に関する講義を行っている。職場内研修計画が作成されており、常勤職員、非常勤職員、新任職員などの段階的な研修も実施されている。市内事業所が合同で開催している研究会もホームが主催しており、職員は、毎月、研修を受ける機会がある。また、新たな取り組みとして、西海市福祉施設連絡協議会に加盟している事業所への見学研修を行っている。	右へ 続く	理事長は、職員毎の、研修受講履歴を作成しており、経験年数に応じた研修に受講できるよう考えている。一人一人の職員が、更にスキルアップできることを常に考えておられる。研修資料も工夫されており、わかりやすい研修資料が作成されている。研修の効果は確実に現われており、理事長や管理者が日頃語っている言葉を、同じように職員が語る光景が見られている。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長自ら、西海地区認知症ケア研究会を立ち上げている。開設時以前より、同業者との交流を行っていくことを重要視し、交流を図る場として、毎月、他のグループホームとの勉強会、情報交換、相互訪問も行っている。研修会があれば職員が参加できるようにしている。また、西海市福祉施設連絡協議会に加盟し、他の福祉事業関係者とも交流を図る機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、職員が病院等に事前訪問したり、ホームに入居する前に、ホームの見学に来て頂き、職員とも顔馴染みになれるようにしている。入居の説明は、ご家族からご本人に説明をして頂いており、なるべく、ご本人が安心して、納得して入居できるよう配慮している。ご家族の了解を得て、ホームの生活に慣れるまでは、ご家族の面会を多く持って頂くようお願いしたり、事前にご家族から、ご本人の好みや嫌な事を教えて頂いている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から、霜きやし(消し)などの昔の習わし、料理の仕方、ラッキョウの作り方等、多くのことを教えて頂いている。ご利用者がホームで生活する中で、疾病等を克服していく姿を見て、生命力や生きる気力の強さ等を学ぶ場面も多々ある。清拭をしている時など、ご利用者から「ありがとう」と言って頂くことも多い。職員は、「当り前のことを当り前のようになっている」気持ちであるが、ご利用者からの言葉は職員の支えとなり、感謝の気持ちで一杯になる。その都度、その気持ちをご利用者へ伝えている。		
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご利用者の方に昔話を聞いたりしながら、思いや希望を語って頂くように心がけている。意思疎通が困難な方は、ご利用者の行動や表情を見つめ、ご利用者と視線を合わせることで、ご利用者の思いに近づく努力をしている。ご利用者が言われた言葉を、毎日「利用者とのコミュニケーション記録簿」に記入している。職員が、何気ない言葉も見落とさず、その言葉に込められている“本当のお気持ち”に近づく取り組みであり、3年間続けてきている。	右へ 続く	「コミュニケーション記録簿」には、ご利用者の何気ない一言に、お気持ちがたくさん詰まっており、その言葉の中に真意の思いを見させて頂くことができる。ご利用者の言葉そのままを記録として残す取り組みであり、ご利用者のその時々思いを把握するために、大きな役割を果たしている。「ご家族や運営推進会議の場で、この素敵な言葉を伝えられてはいかがでしょうか」と外部評価時にご提案させて頂いた。さっそく理事長は、その一部を編集し“ま・た・ん・ね”として初版を発行された。早々の取り組みに大きな感動を頂いた。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎年、計画作成担当者はグループホームにおける“介護計画のあり方”の勉強を続けてこられた。介護計画の作成にあたっては、ご利用者、ご家族の意見、希望を聞きながら、かかりつけ医に相談した結果も踏まえ皆で話し合っ作成している。「センター方式」を活用し、“私の願い”と言う視点を職員は大切にしながら、“その方らしさ”を把握し続けている。“できることをして頂き、心身機能の維持・向上”を大切にしながらも、“楽しみや役割”と言う視点も忘れずに盛り込んでいる。	右へ 続く	毎日の「利用者とのコミュニケーション記録簿」も活用し、ご希望を把握し、「地域で暮らす」と言う視点も持ち、ご利用者主体のご利用者のための介護計画になっている。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎週開催されるミーティングにおいて、全てのご利用者の体調や状況、計画の実施状況などの情報の共有と、意見交換を行っている。短期目標の期間を1カ月間と設定し、細やかなモニタリング及び評価が行われており、日頃から、ご利用者、ご家族にも意見を伺いながら、介護計画の見直しがされている。状態が変化した場合は、随時、アセスメントから見直しを行い、介護計画の変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「ホームで暮らしたい」と言う願いを叶えるために、ご要望に応じて、通院介助を行い、健康保持のために月に1回、訪問看護師に来て頂いている。かかりつけ医への報告を徹底し、異常の早期発見、早期治療につなげている。入院中はお見舞いに行き、ご利用者の状態によっては、ご家族と協力し、交代で24時間付き添うなどの対応も行っている。地域の方のご希望で、空室がある場合は短期利用共同生活介護の利用もして頂いており、地域の方や退居された方々からの介護相談等にも応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族等の要望を聞き、以前からのかかりつけ医で受療して頂いている。かかりつけ医には、ご利用者の状況等を細やかに報告しており、かかりつけ医からも、適宜、必要な助言、指導を頂いている。管理者は、正確な情報を把握、提供する為に、疑問点等がかかりつけ医に何度でも確認する等、いつでも相談できる関係ができています。通院介助は、職員が対応(必要に応じて訪問看護を利用)し、通院の結果は、その都度ご家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人、ご家族の希望で、ご家族、職員の協力とかかりつけ医と連携し、看取りを行なわせて頂いた。その時の経験が、職員の気持ちを一つにすることとなり、「ここで最期まで見させていただけたら・・・」という言葉が、職員からも聞かれるようになってきた。ご利用者、ご家族は、重度化した場合や終末期にどのような意向を持っておられるの把握できており、ご希望に応じた対応をかかりつけ医と連携しながら、行っていきたいと考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「馴れ合い」の関係にならないよう、言葉のあり方についてミーティングで話し合いを続け、職員間で注意しあう努力も続けてきた。理事長、管理者より、“人権を大切にすることを常に意識に置くこと”が伝えられ、更に理事長からは「私達(職員)の生活を支えて下さっているのは誰ですか?」と職員に問う中で、職員の言葉使いも更に敬意のこもった言動になってきている。個人情報保護に関しても理事長より話があり、個人情報に関する話をする際、他に聞かえないよう配慮する等の対応ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や思いを言えない方であっても、可能な限りご自身のペースで、自由に行動して頂いている。自然と役割もできてきており、ご本人のお力が発揮できるような支援もしている。ご自分の意思が伝えられない方にも、ご本人の表情やしぐさを察知し、行動の真意を理解するように全員で配慮を続けている。ホームの前の、お花が咲き誇るお庭にお連れしたり、職員がソファで隣に座ってお話をしたり、楽しいレクリエーションを行う等、毎日毎日が笑って過ごせる日々となるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に、野菜の皮むきや根切りなどの下ごしらえ、食器拭き、テーブル拭き等、お一人お一人のお力に応じて手伝って頂いている。ご利用者に、その日に食べたい物をお聞きしながらメニューに加えたり、旬の食材や菜園で取れた大根やサニーレタス、人参、白菜や水菜等を使い、季節感のある美味しい食事を提供できるよう努めている。職員は、同じテーブルと一緒に食事をしており、楽しい会話の中で、楽しい食事となるよう、日々心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	外部評価で訪問時、脱衣所で職員が歌を唄いながら、ご利用者の足浴をされておられた。ご利用者の表情は心地良さが溢れていて、何ともほのぼのとした光景であった。週に3回、入浴日は決めているが、希望があれば毎日でも入浴できる。必要時はシャワー浴等の対応がされている。羞恥心への配慮も心がけ、基本的には一人ずつの入浴にしている。季節感を出すために、ゆず湯をしたり、入浴時の会話も大切にしており、時には一緒に歌を唄ったり等、楽しい入浴となるよう配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の方々に、長年培ってきたお力を発揮して頂けるよう、食後の食器拭きや洗濯物たたみ、野菜の皮むき等、日常生活の中で役割を持って頂くようにしている。ご利用者の中には、「私がしましょうか?」と、自ら進んでされる場面も見られる。日々の会話の中で昔からの知恵を教えて頂ける方やホームの広報紙「わらび苑だより」の文字を書いて下さる方もおり、お一人お一人のお力を引き出し、活躍の場をより多く作れるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前から良く行かれていた、海や馴染みの地元の店など、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は対応している。ドライブが好きな方にはドライブ、散歩が好きな方は散歩と、ご利用者の意向や体調などに合わせた外出ができるよう配慮している。ホームの前は、一面、緑の山々が広がっており、管理者が育てている四季折々の花々も咲いているため、お天気の良い日は、外に出て日向ぼっこをするなど、気分転換も図っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、朝6時から夜19時までは鍵をかけておらず、ご利用者やご家族が、自由に入出入りして頂いている。ご利用者の安全が確認できるよう、職員同士で声をかけ合い、行動の確認と見守りを職員全員で努めている。ご利用者ごとの落ち着かなくなる時間帯や原因を把握し、転倒の危険性があるご利用者が居室で過ごす時等も、細めな確認を行うように努めている。今後も、外出されたことが一刻も早くわかり、一緒に同行できるような対策を引き続き検討していく予定である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、同系列のホームと合同で避難訓練を行い、消火班は消火訓練も行っている。全職員、地域住民、消防署、消防団の方が参加し、車いすご利用者は毛布を使用した搬送方法等、職員がモデルとなり、ご利用者ごとの避難方法の確認と訓練も行なった。車いすのご利用者が、どの部屋に入居されているかがわかるよう、事務所内へ掲示している。非常災害時の備品の検討も行なわれた。水、食糧、救急セットを用意し、災害発生時に対応できるようになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の今までの食生活や好みを大切にし、嚥下状態、食べやすさ等の確認を行いながら提供している。管理者は、年に4回、食事の内容等を同系列の栄養士に相談し、一人あたりの総たんぱく質量、総カロリー摂取量を計算しつつ、献立を作成している。ご利用者の食事量を記録し、水分量も把握している。水分摂取が少ないご利用者へは、ゼリーや甘い物などで水分量が確保できるよう工夫を続けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先から玄関にかけて、管理者がご家族等から教えて頂きながら育てた季節の花々が咲き誇っており、その花々が、リビング、食卓のいたる所に飾られている。観葉植物も廊下等に置かれ、年々、ホームの歴史とともに大きくなってきている。リビングは採光も良く周囲の山々が見え、眺めも良い。日々の移ろいも感じられ、季節折々の会話も自然と膨らんでいく。日めくりや季節に合った飾り物もされており、ソファでは、ご利用者と職員と一緒に話をしたり、ご利用者が歌を唄っておられ、食事を作る音や香り等の生活感を感じることもできる。居心地の良い共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の身体状況に合わせてギャチベッドを使用する場合もあるが、通常は家庭用のベッドを使用している。居室には、ご本人、ご家族とも相談しながら、衣装ケースやいす、鏡、バック等の今まで使った品々を持参して頂いている。ご利用者が使いやすく動きやすい配置を心がけており、また、くつろげるような空間となるよう配慮されている。持参されている持ち物が少ない方には、ホームで観葉植物を準備して飾ってさしあげる等、お一人お一人にとって安らげる居室になるような工夫を続けている。		